

## 2020年6月NHK中国地方放送番組審議会

6月のNHK中国地方放送番組審議会は、18日（木）、広島放送局において、12人の委員が出席して開かれた。

議事に先立ち、6月7日（日）に放送した「これでわかった！世界のいま」の内容について報告があった。会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、7月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	川井田祥子	（鳥取大学地域学部 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 5月22日（金）ラウンドちゅうごく「コロナでもつながりたい 注目！オンライン」を見た。メインキャスターの出山知樹アナウンサーをDJに見立てた演出や、かわいらしいデザインのスーパーの使用など、楽しく気軽に見ることができた。出山アナウンサーがダンスに挑戦する様子が印象的で、親近感が湧いた。プロのダンサーによる演技に時間を割いていたがそれほど新鮮味はなく、出山アナウンサーの頑張っている様子をもっと見たかった。外出自粛など新型コロナウイルスへの対策が求められ

る今だからこそ、こうした温かく優しい気持ちになれる番組が必要だと感じた。

(NHK側)

思うように外出できず運動不足に悩む人が多いことから、自宅でも気軽にできる運動を紹介しようと出山アナウンサーによるダンスを企画した。今後も時宜にかなった番組を制作していく。

- 5月22日(金) さんいんスペシャル「鳥取の新しい生活様式とは? みなさんの疑問・不安に答えます」を見た。新型コロナウイルスの影響もあって急ピッチで環境整備が進められるICT教育について、教育現場で取り組みを進める校長のインタビューを交えながら掘り下げており、将来の学校像や授業の進め方が分かる内容で参考になった。取材対象が県の教育委員会だったためか県立学校の対応を中心に紹介しており、県立学校ほど設備や人員面で恵まれていない市町村立学校の対応や、そこに通う子どもたちへの影響などについても知りたかった。外出自粛で体を動かす機会が少なくなった高齢者のために、簡単にできる運動を紹介する企画はよかった。また、番組で紹介できなかった質問に「いろ★ドリ」内で答えている点もいいと感じた。

(NHK側)

今回は子どもと高齢者をテーマに番組を構成し、平井伸治県知事にも出演いただいた。指摘を参考に今後の番組制作に取り組みたい。

- これまで、新型コロナウイルスに関連した「さんいんスペシャル」は3回放送され、いずれも生活に密着したテーマを取り上げておりとてもよかったが、今後はぜひ文化芸術をテーマに取り上げてほしい。鳥取県内でも文化芸術に携わる人は少なくなく、大小さまざまある文化施設の経営はいずれも厳しい状況にある。実演芸術家だけでなく、舞台を支える音響や照明を担う業者も苦境にあえいでいる。文化芸術に携わる人々の声を拾い上げると、文化芸術は不要不急のものではなく暮らしに欠かせないものだと伝わると思う。放送をきっかけに、ドイツのような文化芸術への積極的な支援が鳥取県から始まらないかと期待している。

- 5月22日(金) Yスペ「知事に問う 新型コロナ“第2波”への備え」を見た。村岡知事がリモートで生出演し視聴者からの質問に直接答えるという企画は時宜を得ており、非常によかった。健康・医療についてと、暮らし・経済についての2つにテーマを絞っていたため分かりやすかった。特に医療現場の今後の対応策について具体的に紹介されており、視聴者の安心につながったと思う。一方で、知事の話聞く時間が短かったことや、発言内容が会見などで既に発表している内容と重なる部分もあり、残念に思った。
- Yスペ「知事に問う 新型コロナ“第2波”への備え」を見た。喫緊の課題を明確にして番組を制作しておりとても分かりやすかった。知事の考えを聞くことは県民の安心にもつながるので、今後もこのような機会を設けてほしい。新型コロナウイルスによって地域経済を取り巻く環境はいよいよ深刻化しているが、このような状況下でも活路を見出している事例や、ライフスタイルの変化を好機と捉えて取り組んでいる好例があると思うので、ニュースや番組でぜひ取り上げていただきたい。

(NHK側)

県の取り組みや知事の対応については、視聴者からの関心も高く、今回の番組を企画した。課題を分かりやすく例示するために制作したVTRのパートなどもあり、知事が話す時間が短いと感じる視聴者もいたかもしれない。新型コロナウイルスによる経済への影響は大きく、県内のさまざまな取り組みを日々のニュースを通じて取り上げている。これは中国地方に共通する課題でもあり、各局と一緒に番組化できないか今後検討していきたい。

- 5月29日(金) ラウンドちゅうごく「コロナ“介護危機” 休業連鎖からの再出発」を見た。広島県三次市の介護施設で発生したクラスター事例を丁寧に取材し、新型コロナウイルスの感染拡大が介護現場に与えた影響について、分かりやすく伝えていた。情報の公表によって関係者へのひぼう中傷につながった例や、情報を公表しないことで地域に疑心暗鬼を生んでしまった例もあり、非常に考えさせられる事例だった。今回の番組では主に介護の現場への取材で構成されていたが、行政側の意見や対

応についても知りたいと思った。介護は誰もが直面するものであり、多様化する福祉サービスや介護現場の実態など、ふだんからぜひ取り上げてほしい。

- ラウンドちゅうごく「コロナ“介護危機” 休業連鎖からの再出発」を見た。いわゆる“3密”状態が避けられない介護と“新しい生活様式”を両立しなければならない難しさやもどかしさを痛感した。感染拡大に伴い三次市内の約9割の介護事業所が休業や営業の縮小を強いられたことを知り衝撃を受けた。このような事例は今後も発生する可能性もあり、新型コロナウイルスを意識した介護サービスのあり方や、感染に関する情報公開のあり方について示唆するような番組作りを期待したい。
- ラウンドちゅうごく「コロナ“介護危機” 休業連鎖からの再出発」を見た。未曾有の危機に直面した三次市をはじめ対応に当たった行政側の担当者に対し、当時の情報の公表の経緯や今後の対応についてインタビューをしてほしかった。また、介護報酬が引き下げられることになった背景や今後の動向にも言及してほしかった。

(NHK側)

介護の現場はいま大きな転換期に直面しており、課題も山積していると考えており、引き続き取材を進めたい。

- ラウンドちゅうごく「コロナ“介護危機” 休業連鎖からの再出発」を見た。再出発とあったので、どのような解決策を導き出すのかと期待していたが、あまり目立った動きが感じられずもの足りなさを感じた。スタジオ部分で使用していたBGMが、コメントにあっていなかったり扇情的に感じるものであったりしたため、そちらに気を取られた。

(NHK側)

介護サービスの再開の際に行った人数制限や、入所者との面会をオンラインに切り替える動きなど、再出発への模索を伝えた。課題の解決に向けて取り組む介護現場の動きを、今後も取材していきたい。BGMについて、指摘を踏まえて今後の番組制作に取り組みたい。

- 「ラウンドちゅうごく」は欠かさず見ているが、最近では以前放送した番組をもとに再構成した回もあるなど、新型コロナウイルスの影響により、取材や番組制作に制約が出てきているように感じた。

(NHK側)

取材対象や出演者への感染リスクを最小限にするべく、感染防止対策を規定したガイドラインに基づいて取材や番組制作を行っている。緊急事態宣言の解除に続き、県外への移動自粛要請についても緩和に向かうと思われるが、引き続き気を緩めずに対応していく。

- 5月29日(金) 中国！ちゅーもく！ラジオ「おからじ！」を聞いた。新型コロナウイルスの影響により休館中の美術館が、SNSや動画配信サービスを用いて文化や芸術を積極的に伝えていこうとする取り組みを紹介しており、意義のあるものだと感じた。番組に出演していた岡山県出身の俳優、桜井日奈子さんから、新型コロナウイルスの影響により芸能活動でもさまざまな制約が生じているといった苦労話を聞いたことが印象的だった。このような厳しい社会状況下で文化芸術が果たす役割について、人々が認識するきっかけになったのではないか。

(NHK側)

社会に不安が広がる状況で、人々の心を豊かにする文化芸術の果たす役割は大きいと考えている。このような取り組みは今後も続けていく。

- 6月5日(金) ラウンドちゅうごく「佐々岡真司 新生カープへの軌跡」を見た。佐々岡監督の現役時代の逸話などを通じて今年のチームの状況を読み解いたり、見どころが詳しく紹介されたりするなど、初心者にも分かりやすい内容だった。元捕手の西山秀二さんによる解説が秀逸で、随所に佐々岡監督への愛情も感じられた。広島県民のカープへの愛情は非常に強く、例えば昔のカープの映像を居酒屋で見ながらコアなファンが思いを語り合うような番組があると楽しいのではと思った。

(NHK側)

プロ野球の開幕延期に伴い、大勢のファンがカープの話題を求めていると考え、番組を制作した。また、初優勝からリーグ3連覇までの軌跡を振り返る「カープ優勝の記録」という番組を5月31日(日)と6月13日(土)に放送した。8分間の短い番組ではあるが、多くの視聴者に楽しんで見ていただくことができた。

- 6月5日(金)「もぎたて！」を見た。唾液を使ったPCR検査を取り上げていたが、検査内容の紹介がすべて模擬動作で分かりづらく、検体採取の方法などは具体的な検査方法を伝えてもよいと思った。また、新型コロナウイルスの影響で花き出荷量が激減していることに非常に驚いた。一方で、出荷できない花を商店街の飾りに利用し、訪れた買い物客に楽しんでもらおうという取り組みを知りとても温かい気持ちになった。

(NHK側)

今回は唾液を用いたPCR検査の様子は撮影できず、模擬動作による紹介とした。新型コロナウイルスに負けず、人々が支え合い助け合う様子を取り上げ、明るい話題を今後も届けていきたい。

- 6月5日(金)さんいんスペシャル「にっぽん百名山 大山」を見た。2年前にBSプレミアムで放送した番組を再構成したものだったが、登山が盛んになる夏を前に大山の自然の奥深さや多様な楽しみ方、あまり混雑しない登山ルートを紹介など、時宜を得たよい放送だったと感心した。

(NHK側)

今後も好評だった番組をよいタイミングで放送することで、視聴者に楽しんでいただきたい。

- 6月6日(土)さんいんスペシャル「翻弄されて “パイゾン” が見た外国人労働

者の今」を見た。島根県出雲市への永住も考えていた日系ブラジル人の一家が、新型コロナウイルスの影響による工場の減産により日本を離れざるを得ない状況にまで追い込まれてしまったことが残念だった。外国人労働者の受け入れが進む一方、地域社会において彼らを迎え入れて支えるような仕組み作りはまだ不十分だと感じた。全国的にも注目されるテーマであり、続編を期待したい。

(NHK側)

外国人労働者を取り巻く環境はより厳しさを増してきており、今後も取材を続けていきたい。

○ 6月12日(金) @okayama 「“Withコロナ” どう生き抜くか」を見た。新型コロナウイルスの影響で業績が落ち込むなか、ジーンズメーカー、弁当製造販売会社、民宿を営む漁師という3つの事業者が、SNSやインターネットを活用して、新たな販路の構築や商品の認知度の向上などを図って売り上げを伸ばそうと努力する姿勢が、とても参考になった。地元で根差した企業が奮闘する姿を番組で取り上げたことで、視聴者が地元の企業を応援したいと思う気持ちになったのではないかな。

○ @okayama 「“Withコロナ” どう生き抜くか」を見た。新型コロナウイルスを常に意識した暮らしや経済活動が求められるなか、活路を見出して業績を確保しようと努力する事業者の具体的な取り組みが紹介され、大変参考になった。また、地産地消を推進することが地域経済の後押しにつながり、やがては地元を支援することにつながっていくというメッセージをしっかりと伝えており、意義深い番組だったと思う。

(NHK側)

いずれの事業者も顧客との新たな接点や回路を構築しようと模索している点が共通していることや、地産地消が今後の地域経済を支えていく大事な仕組みになると考え紹介した。今後も取材を続けたい。

○ 6月12日(金) さんいんスペシャル 「“課題先進県” 島根 コロナ危機からどう

立ち直る？」を見た。簡潔によくまとまった番組だったが、過疎や高齢化といった日本社会全体が抱える大きな課題に対して、身近で小規模な取り組み事例ばかりが紹介されているといった印象を持った。マクロの課題に対してはマクロの解決策を示してほしい。長年にわたり解決策が見つけられないこれらの課題について、行政や社会が解決する気があるのか、その本気度が問われていると思う。今後は島根県が“課題先進県”から“課題対応先進県”になり、さまざまな課題が解決したことを伝える番組を見たい。

(NHK側)

頂いた指摘を参考にして番組制作を進めたい。課題への対応についても、前向きな情報を視聴者に発信していけるよう努めたい。

○ 6月12日(金) イッピン「維新のふるさと 志を受け継いで～山口 工芸品と菓子～」を見た。幕末から明治にかけて多くの人材を輩出した萩市のユニークな工芸品や特産品が紹介され、印象に残った。職人の技が光る萩ガラスや、伝統の味を守り続ける夏みかんの丸漬けなど、魅力的な文化を再発見できた。新型コロナウイルスに対する不安が広がるなか、郷土を愛する人々や地域に受け継がれる文化を取り上げた番組を見て、穏やかな気持ちになれた。

○ イッピン「維新のふるさと 志を受け継いで～山口 工芸品と菓子～」を見た。新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響が深刻化し、伝統産業が途絶えてしまわないかと危惧している。長らく受け継がれてきた伝統文化や技術、特産品が今後也使われ愛されるよう、放送で取り上げて伝えてほしい。

(NHK側)

多くの偉人にまつわる歴史や代々受け継がれてきた伝統工芸などは地域の財産であると考えており、引き続き地域の文化振興につながる魅力発信に努めていきたい。

○ 新型コロナウイルスについて、気になっていることが2つある。1つ目は感染防止



に努めながら安全に避難する方法を取り上げてほしい。分散避難が推奨される一方で、避難先が多岐に渡ると安否確認や救助活動が難しくなるのではないかと懸念している。2つ目は、新型コロナウイルスによる外出自粛などから、児童虐待など家庭内暴力をはじめとする社会的弱者へのしわ寄せが増えているのではないかと危惧しており、ぜひ注視していただきたい。

(NHK側)

出水期を迎えており、6月20日(土)「NHKスペシャル」や、7月3日(金)「ラウンドちゅうごく」で、新型コロナウイルスと水害から命をどう守るかをテーマに放送する。また6月28日(日)「明日へ つなげよう」では、岡山県真備町で検討が進む分散避難のあり方や、SNSを用いた最先端の防災対策を紹介する。

- 新型コロナウイルスに関する一連の報道で、感染者数の推移が人々の関心を集めていたが、重要なのは入院患者数や病床のひっ迫度といった私たちの生活に直結する指標であったと思う。第2波の到来も予想される中、ぜひ伝え方を検討してほしい。また、新型コロナウイルスが地域経済に与える衝撃はすさまじく、事業者への影響もすでに出てきているため、ぜひ取材を続けてほしい。
- 5月28日(木) こころの時代～宗教・人生～セレクション(4)「人から人へ」(Eテレ 後10:00～10:50)を見た。生後8か月で被爆し、広島流川教会で育った近藤紘子さんを取り上げていた。父の谷本清牧師は被爆者の救済と平和運動に生涯を捧げた著名な人物であり、彼女も平和活動に長らく携わっている。被爆75年の節目となるが、これまで放送してきた数々の「ヒロシマ」に関する番組を今後もぜひ再放送してほしい。

(NHK側)

7月末から8月にかけて「平和都市を築いた人々」をテーマに、ETV特集など過去に放送した被爆関連番組を3週にわたって特集編成する予定なので、ぜひご覧いただきたい。

- 6月13日(土)プロフェッショナル 仕事の流儀選「宮崎駿スペシャル “風立ちぬ” 1000日の記録」(総合 後 4:34~5:47)を見た。これまで名作をいくつも生み出してきた偉大な制作者でありながらも、日々悩み苦しみながら地道に映画を作り続ける姿を見て大変勇気づけられた。新型コロナウイルスで気分が沈みがちないま、時宜を得たい編成だったと思う。
  
- 6月13日(土)ETV特集「引き裂かれた海～長崎・国営諫早湾干拓事業の中で～」を見た。巨大公共事業によって人々の暮らしが大きく変容してしまった現実を丹念に取材していた。NHKアーカイブスの映像も用いて伝えられており、非常に印象的だった。島根県と鳥取県にまたがる中海で行われた干拓事業についてもぜひ取り上げてほしい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 2020年5月NHK中国地方放送番組審議会

5月のNHK中国地方放送番組審議会は、21日（木）、広島放送局において、12人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康文	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	川井田祥子	（鳥取大学地域学部 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 4月17日（金）島根スペシャル「新型コロナ 不安や疑問に池上彰と答えます！」（総合 後7:57～8:42 島根県域）、24日（金）島根スペシャル「緊急事態宣言 池上彰が知事に問う！」（総合 後7:57～8:42 島根県域）を見た。ジャーナリストの池上彰さんがリモート出演して、記者として勤務していた島根県について話すのはとても好感が持てた。リモート出演が今後も広がれば、地域放送局が制作する番組に各界の著名人が出演する機会も増えるだろうし、取り上げる話題の幅も広がると思う。番組には地元の専門家も同じくリモート出演していたが、あまり受け答えに慣れていない様子だったのが気になった。

- 4月17日(金)さんいんスペシャル「鳥取に新型コロナウイルス 疑問・不安にこたえます！」を見た。鳥取県の平井伸治知事と県医師会の渡辺憲会長が生放送に出演し、視聴者からの質問に答えており、25分と短い番組ではあったものの地域住民に安心感を与えることができ、意義がある放送だと思った。また番組内で回答できなかった質問について、翌週の「いろ★ドリ」内のコーナーで回答していたのもよかった。

(NHK側)

5月22日(金)さんいんスペシャル「鳥取の新しい生活様式とは？みなさんの疑問・不安に答えます」でも新型コロナウイルスについて取り上げる予定だ。こちらも番組内で答えられなかった質問は、翌週の「いろ★ドリ」で回答する予定にしている。

- 4月17日(金)Yスペ！「ふらっとあの街 旅ラン 10キロ“本州→九州 関門海峡ラン”」を見た。この番組はBSプレミアムで1月22日に放送した内容を再編集したものと説明があったが、下関や門司の新型コロナウイルスの感染拡大前のにぎやかな風景が、今となっては懐かしく感慨深い気持ちになった。特産のふぐを取り扱う業者をはじめ観光業や飲食業に携わる人々の多くが困窮している状況なので、例えば紀行番組などで彼らを積極的に取り上げるなどして、地域を応援する番組を望みたい。

(NHK側)

新型コロナウイルスによる地域経済への影響は非常に大きいと受け止めている。5月22日(金)放送予定のYスペ！「知事に問う 新型コロナ“第2波”への備え」をはじめ、ニュースでも引き続きこの問題を取り上げていく。

- 4月19日(日)シリーズ「被爆75年 次世代へのメッセージ」第6回「ヒロシマを受け継ぐ若者たち」(総合 前7:45~8:52 広島県域)を見た。スタジオゲストとして出演したNPO法人の渡部朋子代表のコメントが的確ですばらしく、ゲスト選定の重

要性を強く実感した。被爆について考えるきっかけになるので、今後もこういったシリーズをぜひ続けてほしい。朝7時45分からの放送だったが、番組がターゲットとしている若者にとって視聴しやすい時間帯だとは思えないので、夜間の放送も検討してほしい。

(NHK側)

このシリーズは朝だけでなく、深夜にも放送した。若い世代に見てもらうのは簡単ではないが、関心を持ってもらえるように工夫を重ねつつ、番組アーカイブスを利用して、核・平和関連番組の集中編成実施を検討したい。

- 4月24日(金)ラウンドちゅうごく「“地銀”が変わる！～生き残りかけた新たな戦略～」を見た。企業を誘致して雇用を生み出すといった方法ではなく、地域の中で経済を循環させて地域の市場規模を拡大する仕組みを構築することが重要になると強く感じた。アプリなどのインターネットサービスを用いた決済が増え続けて現金を使う機会が減っており、銀行の実店舗が要らない時代が来るのではないかと。今後の地方銀行の動向を追う続編を期待する。

(NHK側)

地方銀行を取り巻く経営環境は厳しさを増し、本業の銀行業だけにとどまらず異業種への進出などを通じて地域経済の活性化、地域の中で経済が循環する仕組みづくりに取り組んでいる。これらはすぐに成果が表れるものではないため、継続して取材していくつもりだ。

- ラウンドちゅうごく「“地銀”が変わる！」を見た。地元のフィナンシャルグループが農業に注目し、新たなビジネスモデルを模索する取り組みはすばらしいと感じた。一方で、地方銀行の頭取が大手金融会社との提携に踏み切った理由や、顧客にとっての利点について話していたが、抽象的な説明にとどまり具体的に何が変わるのかといった肝心な部分が伝わってこなかった。実務に携わる人に出演してもらい、提携によりサービスがどう変わるかなどの説明を入れて、視聴者が理解しやすくなるような工

夫をすべきだったのではないか。

(NHK側)

番組では、提携先の社長のインタビューを通じて、地方銀行との提携によるメリットや今後の見通しについて紹介した。分かりづらかったという指摘は、今後の番組作りの参考にしたい。

- ラウンドちゅうごく「“地銀”が変わる！」を見た。地方銀行とフィナンシャルグループそれぞれの戦略の対比が明確で、新規事業の現状や問題点についての解説も分かりやすかった。新型コロナウイルスにより従来の生活様式や価値観が変わりつつあり、地域経済や地方銀行を取り巻く環境も変化していくと思うので、この2者の取り組みをはじめ中国地方の各地方銀行について、今後も継続取材して番組化してほしい。

(NHK側)

以前から地域経済に焦点を当てた番組を希望する声があり、今回は地方銀行をテーマに番組を制作した。地域経済を取り上げた番組制作は今後も検討したい。

- 4月27日(月)「もぎたて！」を見た。新型コロナウイルスの影響を受けて苦境に立つライブハウスが、会場を動画の撮影場所として提供するサービスを開始したニュースなどを通じて、逆境を克服しようとする県内の各事業者の取り組みを知ることができた。「おうちでミュージアム」というコーナーでは、実際に美術館で鑑賞しているような工夫を凝らした映像が楽しめた。新型コロナウイルスの影響で気持ちが沈みがちな日々が続くが、地域に根差した前向きな話題を今後も伝えていってほしい。

(NHK側)

「おうちでミュージアム」は、アナウンサーが美術館を訪れ、視聴者があたかも作品を鑑賞しているかのような映像になるように意識をして撮影している。美術館の休館が続いている中、関係者の理解と協力を得て実現したものであり、こういった状況でも工夫しながら魅力的な

企画を考えていきたい。

- 5月7日(木)「しまねっとNEWS 610」を見た。「コロナ危機しまねの声」という特集で、視聴者からの新型コロナウイルスに関する質問に専門家が丁寧に回答しており、非常に役立つ内容だった。視聴者から投稿された塗り絵をつなげてアニメーションを作る「#ぬりえでSTAYHOME」というコーナーは秀逸で、こういった視聴者参加型の企画が今後も続くことを楽しみにしている。県内向けのニュース情報番組ゆえ、新型コロナウイルス関連のニュースも島根県内の情報が多くを占めるが、住む地域によっては隣県の動きにも注意する必要があるので、そういった視点があることにも留意してほしい。

(NHK側)

「コロナ危機しまねの声」は、4月17日・24日放送の「島根スペシャル」内で紹介できなかった質問に答えようと企画した。いまま視聴者からの不安の声が届いており、今後も機会を設けて質問に答えたい。#ぬりえでSTAYHOMEはSNSで拡散されたこともあり、他県からも塗り絵が届くなど好評をいただいている。隣県の情報の伝え方については今後検討したい。

- 5月8日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「魅惑の昭和レトロスポット」を見た。暗い気持ちになるニュースが多い昨今、気楽に見られて心が落ち着くよい番組だった。これまで約1年間見てきたが、この番組は出演するゲストによってかなり雰囲気が変わる傾向がある。今回はお笑いコンビの二人がゲストとしてリモート出演していたが、スタジオにいる出演者と会話のテンポがずれるなど、距離感があつたのが残念だった。

(NHK側)

新型コロナウイルスの影響で、ゲストはリモート出演という形になった。スタジオにいる出演者とゲストがうまく呼吸を合わせられるよう、改善を図りたい。

- “テッパン” 話仕入れました！広島かたすみ食堂「魅惑の昭和レトロスポット」を見た。薪で沸かした湯を使い続ける老舗銭湯のおばあさんが紹介されたが、西日本豪雨で銭湯が被災したものの復旧を急いで3日後には地域住民に銭湯を無料開放したエピソードがとても素敵だった。制作したディレクターが地域に愛着を持っているからこそ地元の個性豊かな人々に声をかけることができたのだろうと思った。番組最後の料理コーナーで料理人がチャーハンを作っていたが、なぜその料理人が選ばれたのか、どこが特別な料理なのかといった理由が分からず、番組の構成からこの部分が浮いていると感じた。

(NHK側)

広島県はお好み焼きをはじめとする鉄板料理が有名で、取材した地域の食材や調理法を用いて鉄板料理を作ることになっている。今後もいただいた意見を参考に、わかりやすい演出方法を考えていきたい。

- 5月8日(金)@okayama「新型コロナウイルス 岡山県の現状と今後」を見た。岡山県の伊原木隆太知事がリモートで生出演して視聴者からの質問に答えるなど、大型連休明けのタイミングでの放送は大変意味があったと思う。飲食業や観光業への影響は相当なもので、この苦境を脱するために企業が助成金制度を利用しようとしても手続きが煩雑で支援が受けづらいといった問題も起きている。コロナ禍でこれ以上生活困窮者を生み出さないためにも、あらゆる角度から課題を取り上げて伝えてほしい。
- 5月8日(金)さんいんスペシャル「翻弄されて “パイゾン” が見た外国人労働者の今」を見た。島根県で働く外国人労働者が増加しており、なかでも日系ブラジル人が多くを占めることを初めて知った。出雲市で外国人労働者を支援する男性の目を通して、不安定な状況に置かれた彼らの現実に迫るドキュメンタリーだったが、一方で雇い主である日本人側にも何かしら苦悩があるのではないか。そういった視点からの取材もしてほしかった。



(NHK側)

雇い主である企業側への取材を試みたが実現しなかった。さらなる取材を現在進めており、さまざまな立場からの声を集めたいと考えている。

- 5月11日(月)「いろ★ドリ」を見た。鳥取局で新型コロナウイルスの感染者が出て以降、鳥取県のニュースだけでなく、隣接する島根県の「しまねっとNEWS 610」のニュースを伝えるなど、取材スタッフの確保が厳しいと思われる中でも演出への工夫が見て取れた。しかし、鳥取県の新型コロナウイルス関連のニュースに加えて島根県のニュースも伝えられることで気分が滅入ってしまうこともあり、元気になれるような明るい話題も届けてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルスのニュースについて、番組前半で鳥取県の情報を、後半に島根県の情報を伝えるという構成にしていたため、指摘のような印象を与えてしまったかもしれない。今後、改善できる点がないか検討したい。

- 5月15日(金)ラウンドちゅうごく「転出超過ワーストからの脱却～人・企業を呼び戻せ！」を見た。広島県の転出超過数が全国最多となったのは衝撃だった。広島県で創業したベンチャー企業が、より手厚い支援を求めて事業所を福岡県に移転する事例が紹介されていたが、こういった事態を行政がどう捉えているか、また広島県の支援策はどういったものなのか、それぞれ知りたかった。人や企業の流出を止めようとする山口県の周防大島での取り組みが紹介されていたが、地域の地道な活動が社会全体を転換するような大きな動きになりうるのかという視点からも、この問題を追いつけてほしい。
- ラウンドちゅうごく「転出超過ワーストからの脱却」を見た。「“地銀”が変わる！」の回と同じくこちらも地域経済の活性化が課題であり、この問題の解決には地域に住

む者が自らの地域で経済を循環させる仕組みを作る必要があるとの思いを強くした。シンクタンクの藻谷浩介主席研究員が述べていた「都会にすべてが揃っていて地方には何もないというような考え方はもはや現実とはそぐわず意識改革が必要だ」という意見はとても参考になった。

(NHK側)

転出超過は中国地方共通の課題であり、今回、対応策としては主に山口県での事例を取り上げた。広島県をはじめ各県の取り組みについて、取材を続けていきたい。

- 5月4日(月)から始まった「未来少年コナン デジタルリマスター版」(総合 前0:10~0:39)を見た。初回放送時は4対3のアスペクト比で制作されたものが、今回は1.6対9で放送されていた。これによりアニメーションの構図が変わってしまい、見ている違和感を覚えたのは非常に残念で、オリジナル版のままで放送してほしかった。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 2020年4月NHK中国地方放送番組審議会

4月のNHK中国地方放送番組審議会は、16日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 4月3日（金）ラウンドちゅうごく「1945ひろしまタイムライン 春～もし75年前にSNSがあったら？～」を見た。内容や出演者を見ると若年層への訴求を意図しているものだと感じたが、実際に若年層が視聴したのか疑問に思った。過去の人物の日記を、SNSという現代のテクノロジーを使って発信するという新鮮味のある演出は評価したいが、続編の放送時には若年層への番組広報についても検討を重ねてほしい。また、高齢者をはじめSNSにあまりなじみのない視聴者にとっては、視聴意欲が湧かない内容だったと思う。
- ラウンドちゅうごく「1945ひろしまタイムライン 春」を見た。SNSを通じ

て戦争や平和について伝える取り組みは挑戦的であり、今後の展開に期待したい。実際に書かれた当時の日記に基づいて、現代の若者がSNSの投稿を作成する様子を番組で紹介していたが、番組に日記の執筆者の1人が登場したことで、過去と現在の連続性や当時の出来事が現実味をもって伝わってきて、とても感心した。

- ラウンドちゅうごく「1945ひろしまタイムライン 春」を見た。当時の日記を基に戦時下の人々の行動や感情を現代の若者が読み解いて、SNSで発信するという試みは、未来を担う若い世代が原爆や平和に関心を向ける契機になると感じた。出演者の人選からも若年層に訴求したいという意欲が感じられコメントにも説得力がありよかった。また、番組内容も戦時下の生活に関する既成概念を覆すような実情を知ることができ感心した。全国放送もされたようだが、他県の視聴者にはどのように伝わったのか、また実際に若年層に訴求できているのかという点に関心がある。8月6日に向けた今後の展開として、日記の執筆者の経験はあくまで一面的なものなので、原爆被害の全体像をいかにふかんに見せていくのか期待したい。
- ラウンドちゅうごく「1945ひろしまタイムライン 春」を見た。75年前に書かれた日記の日付と同じ日にSNSの投稿が行われるという企画によって、過去と現在の対比が明瞭になり、日常の中に戦争があったということを如実に感じとることができた。しかし、この点について出演者からのコメントが少なく残念だった。また、出演者が全員男性だったので、続編では力強いコメントを発することができる女性の起用を検討してほしい。
- ラウンドちゅうごく「1945ひろしまタイムライン 春」を見た。戦時下の生活の実情を身近に感じてもらうとする趣旨には賛同するが、SNSでの表現方法には強い疑問を感じた。自らの思いや身の回りの出来事を個人的に記録する手段としての側面が強い日記から、他者に何かを伝えるための手段としての側面が強いSNSへの創造的な意識に期待したが、日記の文面から想像される感情を付加するだけにとどまっており、非常に残念だった。新聞記者の日記に基づいたSNSについても、本心はほとんど明かされておらず、当時匿名性を保って発信ができたならば、彼は何を書き伝えていたのかという視点も持ってほしい。また、75年前にSNSがあったらとい

う仮構にも関わらず、日記の執筆者の本心を捕捉することが困難であるという点に結論を求めており、趣旨と結論が相反しているように感じた。今年1年間続く企画で、8月6日が山場になると予想されるが、すでに番組内でご存命の執筆者の方が紹介されており、今後8月に向けて、さらに盛り上げていくにはどうするのか気になった。

(NHK側)

SNSについては、3月末に2つのアカウントを開設し、今後さらに1つアカウントを開設する予定だ。すでに開設したアカウントの1つには、現在8,700を超えるフォロワーがおり、一定程度若年層にも訴求できていると考えている。8月に続編の放送を予定しており、PRするミニ番組の制作も検討している。日記の執筆者の方はご健在で、被爆体験の証言活動を行っておられ、今回、ご出演いただいた。また、続編では、スタジオゲストの人選についてさらに検討したい。

(NHK側)

日記とSNSという異なる特性を持つ両者をいかに呼応させるか、当初から課題意識を持って議論を重ねながら進めており、今後も検討と工夫を続けていく。ホームページには日記の原文も掲載しているので、SNSの投稿と見比べてほしい。地元の新聞社の協力を得て、当時の新聞記事を逐次SNSに投稿するなど歴史的にも価値のある内容になっているので、視聴者へのさらなる訴求を図っていく。

(NHK側)

4月9日(木)に全国放送を行ったが、関東地方は同時間帯は別の番組だった。再度、全国放送されるよう努め、さらにNHKプラスの配信によって若年層への訴求を図っていく。

- 4月3日(金) Yスペ!「謎解きドラマ 迷宮商店街」を見た。山口県で新生活を始める若年層に向けた番組であるにも関わらず、山口県の魅力が伝わらず暗たんとした印象だけが残り期待外れだった。番組の登場人物から取材先の選択、視聴者参加型の

クイズに至るまで心に響くものが何一つ無かった。若年層に向けて魅力を発信することは必要だが、その手法については再考を促したい。

- Yスペ!「謎解きドラマ 迷宮商店街」を見た。視聴者参加型のクイズを通して番組を進めていくという挑戦的な取り組みを高く評価したい。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大する中での放送になり、時宜を逸してしまったように感じられ、残念に思う。また、室内で撮影された映像に黄色味がかっているように見え少し違和感を覚えた。

(NHK側)

初めて山口駅に降り立ったとき、その静かな町並みに驚くものの、山口県の魅力を知って徐々に気持ちが上向きになっていく様子をドラマ仕立てで伝えたいと思い企画した。室内で撮影された部分の色合いについては、映像に補正を行ったが、調整が難しかったようだ。今後は気をつけたい。

- 4月5日(日)、12日(日)シリーズ「被爆75年 次世代へのメッセージ」(総合5日(日)前7:45~8:44、12日(日)前7:45~8:51 広島県域)を見た。被爆75年という時間の経過を感じさせる文言が番組名に含まれているにも関わらず、近年の番組だけが再放送されていた。原爆との向き合い方や捉え方についての経年的変化が感じられるかと思ったが期待外れに終わり、企画の意義を感じなかった。

(NHK側)

古い番組は権利処理が難しい場合が多い。指摘は真摯(しんし)に受け止め、今後はさらに過去の番組を再放送していくことを検討したい。

- 4月6日(月)「いろ★ドリ」を見た。出演者やコーナーが一新され、より鳥取県らしさが感じられる内容になったと思った。また、鳥取県教育委員会の山本仁志教育長が出演しており、学校再開と今後の見通しについて理解を深めることができた。新型コロナウイルス感染症については今後も最新の情報を提供してほしい。9日(木)の放

送では「推し★ドリ」のコーナーで中山紗希キャスターが春キャベツをおいしそうに食べる様子に親近感を持った。また、「トリペディア」というコーナーでは「鳥取」という地名の由来を知ることができ、興味深いコーナーが新設されたことに感心した。

(NHK側)

出演者の一新に伴いコーナーも新設したが、今後も新たな取り組みに挑戦していきたい。山本教育長の出演については、新学期を前に視聴者からの問い合わせが寄せられたため、その声に応えるべく出演を依頼した。

- 4月10日(金)ラウンドちゅうごく「感染拡大をどう防ぐか」を見た。陰うつな気分になる内容であるので、照明や背景を明るい雰囲気にしてもよかったのではないか。番組内容については、感染者数に加えて退院者数を明示したり、無症状の感染者が勤務していた店を取材したりするなど、視聴者の関心に応えるものになっていた。
- ラウンドちゅうごく「感染拡大をどう防ぐか」を見た。中国地方5県における新型コロナウイルス感染症の情報を得ることができ、意義のある放送だと感じた。飲食店で将来利用できる権利を先払いで購入する「未来チケット」など、中国地方でも事業者を経済的に支援する動きがあるので、こうした取り組みも取材して伝えてほしい。また、新型コロナウイルス感染症に関する各地域のニュースや番組を全国放送するという取り組みは、全都道府県に放送局を持つNHKだからできることであり、非常に興味深く視聴している。こうした映像や番組の活用は今後も推進して行ってほしい。
- ラウンドちゅうごく「感染拡大をどう防ぐか」を見た。広島県で週末の外出自粛要請、島根・鳥取両県で初の感染者確認など、中国地方でも感染拡大が懸念される中で時宜を得た放送だったと思う。番組内容も論点や取材先が充実しており見応えがあった。ただ、取り扱ったテーマが幅広すぎるように感じたので、事業者を支援する動きと一般人向けの情報は分けて番組を制作してもよかったのではないか。新型コロナウイルス感染症に関する情報は連日報じられているが、例えば中国地方における文化芸術面での支援策や事業者への救済策など、地域の視点から続編が制作されるのを期待

したい。

- ラウンドちゅうごく「感染拡大をどう防ぐか」を見た。中国地方の現状を網羅的に知ることができ、不安解消につながった。今年度から出山知樹アナウンサーがキャスターを務めているが、核心を突くコメントで締まりのあるスタジオトークが展開されており、好印象を抱いた。濃厚接触者だと告げられた人が検査で陰性と判明するまでの不安な気持ちをつづった手記を紹介していたが、検査や医療体制などに余裕がない現状では、視聴者の不安感の増大や感染隠匿につながるおそれがあるのではないかと感じた。自己責任論や感染者への中傷を助長するような報道ではなく、医療体制拡充の過程や展望に焦点を絞って行政や病院の対応を詳しく伝えてほしい。

(NHK側)

スタジオのセットや背景について、照明や色合いを工夫するなどして、番組の内容に応じた雰囲気在今后も作っていききたい。「未来チケット」の取り組みについては夕方のニュース情報番組「お好みワイドひろしま」でも紹介する予定であり、その他の支援の動きについては「ラウンドちゅうごく」でも伝えていきたい。新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たない中、医療や経済といった生活に直結する話題をはじめ文化芸術面への支援の動き、視聴者が前向きになり希望が持てる話題など、引き続き最新の情報や課題をさまざまな側面から伝えていく予定だ。

- 4月10日(金)@okayama「NHK岡山 開局90年記念特別番組 千鳥の節目TV」(総合 後7:30~8:42 岡山県域)を見た。地域住民の姿をお笑い芸人の千鳥の二人の視点も交えて映し出していたが、思わず笑ってしまう場面や感動的な場面など、見どころの多い内容となっていた。また、楽屋での千鳥のトーク部分も挿入するなど随所に工夫が凝らされており、72分間を最後まで飽きずに見ることができた。岡山県以外の方にも楽しんでもらえるのではと思った。

(NHK側)



当初は公開番組とする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公開を取りやめてスタジオ収録に切り替えた。演出面で工夫を凝らしたことに加え、千鳥の二人の力量の高さにも助けられ、明るい番組にすることができた。

- 4月10日(金)さんいんスペシャル「うまく話せなくても～吃音と向き合う日々～」を見た。家族とともにきつ音に向き合いながら、前へ踏み出す様子が描かれており感心した。また、無知や無理解から差別や偏見が生まれると強く感じたので、障害に対する理解促進につながるこのような番組を今後も制作してほしい。
- さんいんスペシャル「うまく話せなくても」を見た。きつ音に家族で向き合う姿がよく描かれており感心した。しかし、番組で主に取り上げていた方よりも、番組冒頭で登場した方のほうが障害が重いように思われたので、この方を中心に番組を制作すべきだったのではないかと疑問に思った。

(NHK側)

番組では、鳥取県で初めて開催された「吃音のつどい」の企画者である清水聡さんを主に取り上げたが、番組冒頭では清水さんの生き方に大きな影響を与えた方を紹介した。番組は「吃音のつどい」の開催と新たに迎える春、という2点のタイミングで制作した。多様な価値観が認められ一人一人が尊重される共生社会の実現につながるよう、課題意識をもって番組を制作していきたい。

- 4月10日(金) Yスペ!「クイズ山口県、コレ知っちゃって!」を見た。クイズを通じて山口県各地の情報や山口県ゆかりの人物などについて知ることができる良い企画だと感じた。ただ、歴史に関する情報の占める割合が多いように感じたので、自然や食についても紹介すればより山口県の魅力が伝わったのではないかと思う。
- Yスペ!「クイズ山口県、コレ知っちゃって!」を見た。25分の番組内で県内5か所を駆け足で紹介していたためそれぞれの情報が浅く、クイズも平易すぎて残念だ

った。また、新型コロナウイルス感染症が拡大する中での放送となり、県内各地の魅力を紹介しても実際に訪れるのがはばかれるので残念に思った。今後は臨時休校で在宅時間の増えた子どもを対象にした番組など、時宜にかなった番組の制作に期待したい。

(NHK側)

山口県にこの春転入してきた方に、地元のことを楽しみながら知っていただこうと考えてクイズ形式の番組を制作したため、クイズの問題は基本的な内容にした。指摘は今後の参考にしたい。

- 3月23日(月)鶴瓶の家族に乾杯「まさかの連続！？市村正親と岡山県美作市ぶっつけ本番旅！」を見た。俳優の市村正親さんが「春日座」という芝居小屋にたどり着くまでの過程を通じて、人と人の縁を感じることができ、温かい気持ちになった。この芝居小屋で農村歌舞伎を継承する地域住民の熱意と、市村さんの演技に対する熱意とが交差するさまを感じ取ることができ、秀逸な番組になっていたと思う。
- 2017年1月14日(土)NHKスペシャル MEGA CRISIS 巨大危機～脅威と闘う者たち～ 第3集「ウイルス“大感染時代”～忍び寄るパンデミック～」をNHKオンデマンドで見た。新型インフルエンザなどを取りあげた番組だったが、ロックダウンされた都市など、現在の状況と重なる点も多く、まるで3年後の現在の世界を予測していたかのように感じた。今後もウイルスの脅威を伝えるだけでなく、地球温暖化や航空路線の拡大などにより高まり続ける感染症リスクを前にして、人類はいかに行動すべきなのか考えさせるような番組の制作に期待したい。また、今回の新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響により小規模事業者を中心に経済面で甚大な困難に直面しているので、経済対策の効果や課題についても取り上げてもらいたい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局